中日新聞

2013年(平成25年)1月23日(水曜日)

女子のダメ出し 商品開発手助け

市場調査 中小の依頼増

三重県伊勢市に本社があるコンサルティング会社、アーリー・バードの名古屋事務所(名古屋市)は、女性の目線で企業の新商品開発を支援する市場調査「女子ラボ」に力を入れている。見た目や味、価格に敏感な女性の意見を商品づくりに取り入れたい中小企業からの依頼が増えている。(平井良信)

「お土産で持ち帰るには少し重いんじゃない」「インテリアにはちょっと向かないと思う」

名古屋市内の貸会議室で手厳しい意見が飛び交う。この日は、亀山商工会議所(三重県亀山市)が特産のろうそくとお茶を掛け合わせて試作したペットボトル型の非常用ろうそくと三種類のお茶の香りがするキャンドルがテーマ。二十~四十代の女性六人が目を光らせ、次々に感想を出し合う。

中小企業診断士で女子ラボ代表の丸山暁美さん(三九)は「褒め言葉よりも、前向きなダメ出しの方が依頼者に喜ばれる」と語る。

二〇一一年に始めた女子ラボは、企業の依頼を受け、主に名古屋市内で開いている。メンバーは五十人の登録者の中から商品や対象に合わせて変える。使用感や味、名前、価格などについて出た意見をまとめ、依頼者に報告する。依頼料は十万円前後から。

名古屋市東区のイタリアンカフェ「LOKO」は昨年、野菜を使ったパウンドケーキの開発で女子ラボを利用した。試食会での意見を参考にデザインをハート形に変えたところ、女性客の売り上げが伸びたという。

オーナーシェフの原田賢志さん(三三)は「スイーツは女性の意見が大事。味から包装まで具体的な声を聞けてよかった」と喜ぶ。

女子ラボは、商圏の大きい名古屋での反応を知りたい地方の企業や、独自のマーケティング部門を持たない中小企業などに需要があるとみている。丸山さんは「子どもにとって安全かどうかなど、女性にしか気付かないこともある。売れる商品づくりに生かしてもらえたら」と話す。

ペットボトル型の非常用ろうそくの試作品を見ながら議論する女性たち=名古屋市中区栄で

名古屋・コンサル事務所